

復員廳第二復員局公報

第一二九號

昭和二十二年八月一日(金)
第二復員局文書課

命令

復二第五二一號

昭和二十年內令第七號中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年七月十一日

復員廳總裁

大竹掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「同 第八十九號(佐)」、「同 第一百五十八號(佐)」及ビ「同 第二百三十四號(佐)、同 第二百四十七號(佐)、同 第二百五十號(佐)」ヲ削ル。

(參照 昭和二十二年三月六日第二復員局公報第一〇號)

復二第五二二號

佐世保地方復員局所管

- 掃海艦 驅潛特第八十九號
- 同 同 第一百五十八號
- 同 同 第二百三十四號
- 同 同 第二百四十七號
- 同 同 第二百五十號

右ヲ特別輸送艦ト改メル。

佐世保地方復員局所管

特別輸送艦 驅潛特第八十九號

復員廳第二復員局公報 第一二九號 昭和二十二年八月一日

一五一

0992

ク。

昭和二十二年七月二十四日

復員廳總裁

復二第五三一號

復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳總裁

吳地方復員局ノ部中下關掃海部ノ項「二七」ヲ「一七」ニ、「九〇」ヲ「五一」ニ、「二三」ヲ「一四七」ニ、計ノ項「二二〇」ヲ「一一〇」ニ、「三六一」ヲ「三三三」ニ、「九二五」ヲ「八四一」ニ改メル。
合計ノ項中「五六〇」ヲ「五五〇」ニ、「一、三四七」ヲ「一、三〇八」ニ、「四、〇四六」ヲ「三、九六二」ニ改メル。

(參照 五月十六日第二復員局公報)

復二第五三二號

當分ノ間試航基地設置等ニ關シ次ノヨウニ定メル。

昭和二十二年八月一日

復員廳總裁

第一條 吳地方復員局ノ試航基地ヲ左ノ地ニ設置スル。

吳、徳山

第二條 試航基地ノ任務ハ左ノヨウデアアル。

一 試航船ニ對スル燃料、清水及ビ生糧品ノ補給

二 試航船ソノ他ノ遭難時ニオケル救難

三 水中障害物ノ掃海探知

四 試航用浮標、水中障害物、浮標設置及ビ揚收

五 船體機關ノ修理ニ對スル連絡

六 試航關係員ノ休養

第三條 試航基地長ニハ二級ノ復員事務官ヲ以テコレニ充テ

ル、吳地方復員局長ノ命ヲ受ケテ試航基地ノ事務ヲ掌ル。

試航基地ハ廳ニ、試航基地長ハ廳長ニ準ズルモノトスル。

第四條 試航基地ノ定員及ビ所屬船艇ハ別表第一及ビ第二ニヨ

ル。

第五條 試航船ハ掃海船東亞丸、桑榮丸、榮昌丸及ビわかぐさ

丸トシ各船ニ一隻宛ノ追躡艇(觀寶丸、長門丸、蓬來丸、雄

風丸)ヲ配スル。

第六條 掃海船艇ノ定員ハ別表第三ニヨル。

附則

昭和二十二年復二第一五七號掃海船艇ノ定員試行ノ件ハコレヲ

廢止スル。

(別表添)

0993

(復二第五三三號別表第一)

(昭和二十二年八月一日復員廳第三廳員局公報)

試航基地定員表				
試航基地	種別	復員事務官		計
		級	人員	
德山試航基地	基地員	四	七	六
吳試航基地	基地員	四	七	六
德山試航基地	基地員	四	七	六
				一七

(復二第五三三號別表第二)

試航基地配屬船艇表	
試航基地	配屬船艇
吳試航基地	曳船第五一八號、曳船第八七九號 曳船(自走水船)第五三九五號 追蹊艇(豫備)横須賀丸
德山試航基地	曳船第一〇三〇號、曳船第一一二二號 曳船(クレーン)第五六九八號 雜船四隻(金龍丸、漁進丸、第三北浦丸、久徳丸) 汽艇一隻、通船一隻、シヤラン船一隻、グルマ船一隻

(復二第五三二號別表第三)

(昭和二十二年八月二日復員廳第二復員局公報)

船航試		追躡艇	雜船	大發	曳船乙	曳船甲	元驅潛特務艇	元哨戒特務艇	元特設掃海艇	船艇官職名		掃海船艇定員表
わか	桑榮									艇	艇	
1	1				1	1	1	1	1	長艇船	復員局 三官 級 員、備人 計合	
5	6						1	2	2	科兵元		
4	4						1	1	1	機科元關		
1	1									醫科元務		
1	1									主科元計		
11	13	2	1	1	2	4	5	7	6	科兵元		
8	11	2	1	1	3	5	3	3	4	機科元關		
1	1									看科元護		
2	3									主科元計		
12	15	3	1	3	2	5	9	10	7	科兵元		
12	13	3	2	2	2	4	4	4	3	機科元關		
	1									看科元護		
3	3						1	1	1	主科元計		
61	73	10	5	7	10	19	25	29	25	計合		

備考
曳船(自走水船)及ビ曳船(クレーン)ヲ乙、ソノ他ノ曳船ヲ甲トスル。

0995

新木中

復員廳第二復員局公報

第一三〇號

昭和二十二年八月四日(月)

第二復員局文書課

○令、達

復二第五三三號

第二復員部内臨時勤務地手當支給規則ノ一部ヲ次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳 總裁

第二條中「イ」ヲ「特別地域」ニ「ロ」ヲ「甲地域」ニ「ハ」ヲ「乙地域」ニ改メ乙地域中「前各號以外ノ市」ノ下ニ「及ビ廣島縣大竹町」ヲ加ヘル。

附則

本則ハ昭和二十二年四月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。

○通 牒

第三〇番電 (昭和二十二年七月二十三日發電済)

發 第二復員局長

宛 部内一般

一 月分乃至三月分給與追給ノ件

本年七月一日現在内地ニアル第二復員部内各廳ニ勤務スル者デ本年一月一日カラ三月三十一日迄ノ間ニオイテ暫定加給ノ支給

ヲ受ケテキタモノニハ左ニヨリ本年一月分乃至三月分ノ給與ヲ追給スルコトニ定メラレタ。

一 支給額

左ノ各號ノ合計額カラ本年一月一日カラ三月三十一日マデノ間ニ支給シタ給與總額(俸給又ハ給料(報酬ヲ含ム以下同ジ)、臨時勤務地手當、臨時家族手當及ビコレヲニ對スル暫定加給)ヲ控除シタ額

(イ) 本年一月一日カラ三月三十一日迄ノ間ニオイテ支給シタ俸給又ハ給料及ビ俸給、給料ノ暫定加給

(ロ) 前號ノ期間中ニ支給シタ俸給給料ノ暫定加給ノ六割ニ相當スル金額

(ハ) 百五十回(イ)ノ期間中ニ支給シタ臨時家族手當ノ算出ノ基礎トナツタ各月ノ扶養家族員數ノ延人員數ヲ乘ジテ得タ金額

(ニ) (イ)乃至(ハ)ノ合計額ニ左ノ率ヲ乘ジテ得タ金額

東京都、京都市、大阪市及ビ神戸市ノ勤務地トスル者 三割

横濱市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ノ勤務地トスル者 二割

右以外ノ市及ビ大竹町ノ勤務地トスル者 一割

所得稅額

復員廳第二復員局公報 第一三〇號 昭和二十二年八月四日

一五三

0996

支給額方 三、二五〇未滿ノ場合 一割六分相當額

三、二五〇ヨリ三、二五〇超過 五〇〇〇回

三、二五〇ヨリ三、三七五超過 五二五〇回

以上一、二五〇又ハ一、二五〇未滿ノ増ス毎ニ右ニ二

五回ヲ加エテ額

(註) コレハ所得税法別表第三中三ヶ月迄ノ場合ノ稅額ニ

ヨルモノデアル。

三 支拂方法

全額自由支拂

四 支出科目

行政共通費ノ給與特別措置費(日、節)

五 其ノ他

新基本給決定後過渡トナル分ハ還付セシメラレコトアルベ

シ。(註) 外地ニ在ル元軍人軍屬ニハコノ還給ハ行ワレナイ。

二復員主第七號ノ四七

昭和二十二年七月三十一日

復員廳第三復員局經理部長

關係各廳長殿

政府職員ノ災害補償ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り大藏省ヨリ通知ガアツカカラ該當事

項ガアル場合ニハ地方復員局長經由第二復員局長ニ上中スルヨ

シ取計ワレタイ。

給發第七七一號

昭和二十二年七月十七日

大藏省給與局長

第二復員局經理部長殿

政府職員ノ災害補償ニツイテ

職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ死亡シ又ハ障害ヲウケタ政府職員

ノ災害補償ニツイテハ別紙ノ次官會議議解事項ニ基イテコレノ

處理スルコトト致シタイカラ、右御了知サレタイ。

政府職員ノ災害補償ニツイテ

昭和二十二年七月七日次官會議議解

職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ死亡シ又ハ障害ヲウケタ政府職

員ノ災害補償ニツイテハ、勞働基準法ノ公布ニ伴ヒ、目下關係

法令ノ制定ヲ考慮中デアルガ、右法令ノ制定ニハ相當ノ時日ヲ

必要トスルノデ右法令ノ制定ニ至ルマデノ暫定的ノ措置トシテ

職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ退職(死亡ヲ含ム)シタ職員ニア

ツテハ、退官、退職手當支給準則第九條ノ規定ノ運用ニヨリ、

在職中ノ職員ニアツテハ同基準法ノ趣意等ヲ考慮シテ適宜處理

スルコトトシ、コレガ支給額ニツイテハソノ都度所管大臣ガ大

藏大臣ト協議シテコレヲ決定スルコト。

(參考) 退官、退職手當支給準則抜萃

第九條 第二條乃至第六條及ビ前條ノ規定ニヨリガタイ特別

ノ事情アル場合ニオイテハ、所管大臣ガ大藏大臣ト協議シ

テ別ニコレヲ定メルコトガデキル。

(第二條乃至第六條ハ支給率ノ條文ニシテ第八條ハ勤務期

間ノ條文ナリ)

復員廳第二復員局辭令公報

第四八號

昭和二十二年八月四日(月)
第二復員局文書課

<p>昭和三十二年七月十六日</p>	<p>復員事務官 古館 早廣(三六五) 金子 重幸(シ 六八)</p>	<p>願ニ依リ木官ヲ免ズル ○昭和二十二年七月二十一日 復員事務官 卜部 章(二三三三)</p>	<p>二十年九月五日發令(海軍省) 海軍中尉 川名 良太(ヨ 四八五)</p>	<p>二十年十月十五日發令(海軍省) 海軍中尉 瑞穂 曉光(ヨ 三〇七五)</p>	<p>二月二日發令(復員廳) 海軍中尉 横尾 恒喜(ヨ 九二五)</p>	<p>七月十日發令(復員廳) 兼艦長ヲ免ズル 兼艦長職務官 福島 榮吉(二八五)</p>
<p>海軍第四十八號艦長兼海軍第七十六號艦長復員事務官</p>	<p>田中 常治(三四〇)</p>	<p>兼海軍第七十六號艦長ヲ免ズル 松 下 寛(三七三)</p>	<p>兼海軍第十六號艦長ヲ免ズル 野 尻 雅一(三六七)</p>	<p>七月十五日發令(復員廳) 海軍第二十一號艦長兼海軍第二十一號艦務長兼海軍第二十一號艦務長兼海軍第二十一號艦務長 中 神 信男(ク 三五五)</p>	<p>臨時董醫業務ヲ囑託スル 花月 醫務業務囑託 矢内 貞夫(ク 三五九)</p>	<p>臨時生野醫務業務ヲ囑託スル 復員事務官 生田 日 章</p>
<p>七月十六日發令(復員廳)</p>	<p>復員事務官 古館 早廣(三六五) 金子 重幸(シ 六八)</p>	<p>同 十九號俸ヲ給スル 同 二十二號俸ヲ給スル</p>	<p>七月十七日發令(復員廳) 海軍第九十八號艦長ヲ免ズル 海軍第九十八號艦長復員事務官 西 野 繁(二九九)</p>	<p>海軍第七十九號艦長ヲ免ズル 海軍第七十九號艦長復員事務官 太 田 颯(四三三)</p>	<p>海軍第九十八號艦長ヲ免ズル 海軍第九十八號艦長復員事務官 草 野 家康(五七六)</p>	<p>臨時探提乘組ヲ命ズル 臨時探提乘組長 鈴木 實(三六八)</p>

復員廳第二復員局辭令公報 第四八號

二二五

0998

七月十九日發令(復員廳)

吉村 正美(クニシキ) 臨時若鷹醫務長ヲ免シ臨時荒崎醫務長ヲ命ズル

山田 眞人(マコト) 臨時荒崎醫務長ヲ免シ臨時若鷹醫務長ヲ命ズル

矢内 貞夫(マコト) 臨時生野醫務長ヲ免ズル

七月二十一日發令(復員廳)

復員事務官 下部 章(シラカ) 二十號俸ヲ給スル

七月二十五日發令(復員廳)

秋航海長復員事務官 賀茂 和男(カミキ) 復員廳第二復員局人事勤務ヲ命ズル

元海軍中尉 竹内勝太郎(ヨシカズ) 同 池田 照夫(テラオ) 同 小澤 章(シラカ) 同 稻葉 秀雄(ヒノハ) 同 森 珥(ノリ) 同 大石 修平(オシヘイ) 同 仁科 駿郎(ニシカ) 同 山本 和石(ヨシカ) 同 右ハ六月三日復員シタ(復員廳)

元海軍大尉 作田 澤秋(ササキ) 同 岩波 健一(イシノ) 同 右ハ六月十四日復員シタ(同)

元海軍大尉 仲田 立男(ナカノ) 同 元海軍中尉 並河 丈二(ナガハ) 同 元海軍中尉 村松 知也(ムラマツ) 同 右ハ六月二十一日復員シタ(同)

元海軍中尉 寺林喜久雄(テラハ) 同 元海軍中尉 磨井 洋一(ササキ) 同 右ハ六月二十二日復員シタ(同)

元海軍大尉 若林 一徳(ニギハ) 同 元海軍中尉 藤川 清登(フジカワ) 同 元海軍中尉 石崎 克巳(イシザキ) 同 元海軍中尉 松田 清隆(マツダ) 同 右ハ六月二十三日復員シタ(同)

元海軍中將 丸茂 邦則(マツモト) 同 元海軍主計大尉 佐々木 剛(ササキ) 同 右ハ七月七日復員シタ(同)

元海軍主計大尉 椎原 昌造(シラカ) 同 元海軍主計少佐 今村 一郎(イマムラ) 同 右ハ七月十六日復員シタ(同)

○取消 第四五號一一九頁三段復員事務官島村和

猪ノ辭令ハ取消

8000

0999

復員廳第二復員局公報

第一三一號

昭和二十二年八月六日(水)

第二復員局文書課

○令 達

復二第五三九號

元海防艦 保 高

元第三十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年七月十九日

復員廳 總裁

復二第五四〇號

元第一百五十八號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。
昭和二十二年七月二十五日

復員廳 總裁

復二第五四一號

元驅逐艦 桐

同 初

元海防艦 生

野 櫻

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第五十二號海防艦

元第七十八號海防艦

元第七十九號海防艦

元第四百十二號海防艦

元第二百二十一號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第八十七號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年七月二十九日

復員廳 總裁

復二第五四二號

元驅逐艦 葛

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

ク。

元驅逐艦 杉

元海防艦 對

元第五十八號海防艦 馬

元第一百十八號海防艦

復員廳第二復員局公報 第一三一號 昭和二十二年八月六日

一五五

元第九十二號海防艦
元第九十八號海防艦
右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第八十五號海防艦
元第二百五號海防艦
右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。
昭和二十二年七月三十一日

復員廳 總裁

復二第五四三號

昭和二十年内令第七號中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳 總裁

大竹掃海部ノ項ヲ削ル。
下關掃海部ノ項掃海艦名ノ欄ヲ「哨特第三百三十五號、同 第三百三十六號、同 第三百三十八號、同 第三百三十九號、同 第三百五十二號、同 第三百五十三號、同 第三百五十四號、同 第三百七十五號、同 第三百七十九號、同 第三百九十一號、同 第八十四號(舞)、同 第三十一號(阪)、同 第三百三十四號(阪)、驅潛特第七十二號、同 第七十九號、同 第八十六號、同 第二百四十四號、同 第二百五十五號、同 第二百二十二號、同 第二百四十六號、同 第八十八號(横)、同 第三百七十一號(横)、同 第二百

百二號(横)、同 第九十號(佐)、同 第九十三號(佐)、同 第九十九號(佐)、同 第二百三十一號(佐)、同 第二百四十九號(佐)、同 第二百二十一號(阪)、同 第三百四十二號(阪)ニ、掃海艦又ハ隻數ノ欄ヲ「第二鮮友丸、雜役船(曳船)二隻」ニ改メル。
阪神掃海部ノ項ヲ削ル。

(參照 昭和二十年七月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第五四四號

橫須賀地方復員局所管

掃海艦	驅潛特第	一	號
同	同	第六十八號	
同	同	第一百五十五號	
同	同	第一百五十九號	
同	同	第一百六十一號	
同	同	第五十八號	
同	同	第七十八號	
同	同	第一百六十四號	
同	同	第一百七十五號	
同	同	第一百七十九號	
同	同	第一百八十一號	
同	同	第一百八十六號	

吳地方復員局所管

○通牒

二復補第二二八號

昭和二十二年八月二日

復員廳第二復員局補給部長

關係各廳長殿

液體燃料換算率ノ件通牒

連合軍ヨリ受込ノ「ダイゼル油」ノ單位換算率ニ關シテハ、受込單位方「應」ノ場合ハ、二復補第一一八號通牒（備考一）ニ拘ハラズ二復補第七番電（備考二）ノ通り一應（平均比重 15°C ・ 4°C ）・八四〇トシテ一、一九〇立）ヲ七・五「バレル」トシテ處理スル事ニ定メラレタ。

（備考）

一、二復補第一一八號（二二一〇一四）

發 二復補給部長 宛 各地方補給部長

燃料單位換算率ノ件通牒

連合軍ヨリ供給受ノ重油、潤滑油等ハ「二軒」「六・二八九

「バレル」ノ換算率ニヨリ處理サレタイ。尙重油ハ從來通

リ一應一、〇七〇立トスル。

二、二復補第七番電（二二一七一一四）

發 二復總務部 宛 横、吳、佐、舞各復總、特別保管艦

今後「バレル」ノ換算率ハ二復補第一一番電（二二一六一

二七）ニ拘ハラズ從來通り七・五（ダイゼル油）、六・七（罐

用重油）ヲ使用スルコトニ定メラル。

二復補第一一番電中（ハ、「トン」「バレル」ノ換算率ハ

左ニ依ル。

（本件米側指示ノモノ）
ダイゼル油六・七バレル、罐用重油六・二九バレル

三、右「ダイゼル油」ハ帳簿整理上B重油ノ取扱ヲスル。

○雜款

○事務所、移轉

八月一日開廳吳試航基地

吳市海岸通七丁目（舊驅逐艦橋内）

宮崎縣教育民生部第二世話課

宮崎市別府町宮崎縣廳内（電話二八番）

復員廳第二復員局公報 第三〇一號 昭和二十二年八月六日

一五九

復員廳第二復員局公報

第一三三號

昭和二十二年八月十五日(金)

第二復員局文書課

○令 達

復二第五五號

元海防艦 擧 提

右ノ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月五日

復員廳總裁

復二第五五六號

元驅逐艦 擧

右ノ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月七日

復員廳總裁

○通 牒

復二第五五〇號

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁官房長

各地方復員局長殿

海軍ノ軍人軍屬デアツタ者ノ身上ノ取扱及ビソノ家族等ニ對スル俸給ソノ他ノ給與事務ニ關スル件申進

首題ノ件朝鮮ニ關スルモノハ、吳地方復員局ニオイテ、滿洲、關東州、臺灣及ビ沖繩ニ關スルモノハ、佐世保地方復員局ニオイテ、千島及ビ樺太ニ關スルモノハ、横須賀地方復員局(事務ノ一部ヲ北海道民生部第二世話課(札幌)ニ依託スル)ニオイテ處理サレタイ。

第七番電 (昭和二十二年七月一日發電済)

發 經理部長

宛 各地方復員局經理部長、各管船部長、各艦船長

四ヶ國引渡ノ爲ノ回航艦船乗員ノ給與ニ關スル件

四ヶ國ニ引渡ノ爲ノ回航艦船乗員(以下乗員トイフ)ノ給與取扱ハ左ニヨルコトニ定メラル。

一 乗員ノ一回航ノ期間(内地ノ最終港灣ヲ出港ノ日ヨリ最初ニ内地ノ港灣ニ歸着ノ日迄ヲイフ)ガ三十日以内ノ豫定デアル場合ハ乗員ニ支給スル俸給又ハ給料、暫定加給、家族手當及ビ勤務地手當(一割額トス)ハ本年五月二復經主第二號ノ

復員廳第二復員局公報 第一三三號 昭和二十二年八月十五日

一六一

1005

四二第三號(俸給等三月分以内前金拂ノ件)ニ拘ラズ出港ノ月分ヲ含ミ二月分以内ノ前金拂ヲ爲スヲ例トス。

二 乘員ノ航海日當ハ第二復員部内職員給與規則第六條ノ規定ニ拘ラズ一回航ノ期間中支那沿岸ニツイテハ二級官二十回、三級官十五回、雇員十回、米(比)、英、ソ沿岸ニツイテハ二級官三十回、三級官二十回、雇員十五回ヲ日額ニヨリ支給ス。

三 乘員トシテ又ハ乘員ヨリ他ニ赴任又ハ轉勤スルトキハ旅費支給上臨時勤務者ノ例ニヨリ旅費(移轉料、着後手當及ビ家族移轉料不給)ヲ前金拂スルモノトス。

復二第五六二號

昭和二十二年八月一日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

臨時囑託者採用ニ關スル件申進

復員業務遂行上、各所屬ノ長方特ニ必要ト認メタ者ニツキ、左記ニヨリ囑託者トシテ臨時採用スルコトガデキル。

昭和二十一年四月第一六一六五四番電(第二復員省公報第八四號參照)ハ、昭和二十二年七月三十一日限リコレヲ廢止スル。

記

- 一 本申進ニヨツテ採用ノ囑託者ヲ臨時囑託ト稱スル。
- 二 臨時囑託ハ外地ヨリ歸還セル部隊、廳等ノ殘務整理ニ當ル

ベキモノデ、期間ハ約一ヶ月トシ、止ムヲ得ナイ場合ハ二ヶ月マデ委嘱スルコトガデキル(元大佐以上ノ者ノ採用ハ豫メ中央ノ許可ヲ必要トスル)。

三 待遇ノ決定ハ現行囑託者待遇内規ニヨルガ、辭令中「部内限待遇」ニ代エ「部内限扱」ヲ以テシ、一般囑託者ト區別スルモノトスル。

四 報酬額ハ囑託者報酬標準ニヨル。

五 本臨時囑託ノ採用及ビ解囑ニ際シテハ、従前ノ例ニヨリ速カニ報告シナケレバナラナイ。

七 本報酬支出科目ハ復員費第二復員費給料在外者給トスル。

○雜 款

○名稱變更

秋田縣民生部世話課(分室)

秋田市土手長町上丁一ノ一

○移轉

德島縣教育民生部第二世話課

德島市新藏町一丁目二十三番地(電話德島一九番)

1006

復員廳第二復員局公報

第一三三號

昭和二十二年八月二十日(水)
第二復員局文書課

○令 達

復二第五六八號

元驅逐艦 夕 風
元第十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元海防艦 金 輪

元第二十七號海防艦

元第六十號海防艦

元第二百二十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元驅逐艦 楨

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月十四日

復員廳總裁

復二第五六九號

昭和二十二年復二第五三三號試航基地設置等ニ關スル件中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月十八日

復員廳總裁

第七條 紀伊由良ニ大阪地方復員局ノ補給基地ヲ置ク、ソノ任務ハ左ノヨウデアル。

一 掃海要具ノ保管及ビ修理補給

第八條 紀伊由良補給基地ノ定員ハ左ノ通り定メル。

復員事務官 二級 四人

復員事務官 三級 十三人

雇員、傭人 十三人

第九條 紀伊由良補給基地ニハ二級ノ復員事務官ヲ以テコレニ充テル、大阪地方復員局長ノ命ヲ受ケテ補給基地ノ事務ヲ掌ル。

紀伊由良補給基地ハ廳ニ、紀伊由良補給基地長ハ廳長ニ準ズルモノトスル。

第十條 紀伊由良補給基地ニ左ノ曳船ヲ附屬スル。

曳船第六一九號、曳船第八二七號

附則

コノ命令ハ昭和二十二年九月一日カラコレヲ施行スル。

(參照 八月一日第二復員局公報)

復員廳第二復員局公報 第一三三號 昭和二十二年八月二十日

一六三

○通 牒

二復經會第一號ノ一一八

昭和二十二年八月一日

支出官復員廳第二復員局經理部長

各資金前渡官吏殿

手許保管金ノ件通知

出納官吏事務規程第二十七條ニヨル首題ノ金額ヲ三萬圓ト定メ
ル。

二復經主第二號ノ七九

昭和二十二年八月五日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

「國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂等規
則」中一部改正ノ件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り改正サレタカラ、承知サレタイ。

(昭和二十二年三月二十七日第二復員省公報第五九號參照)

大藏省令第七二號

國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂等規則ノ一部ヲ次ノヨ
ウニ改正スル

昭和二十二年七月二十六日

大 藏 大 臣

第一條第一項第三號中「五百圓」ヲ「五千圓」ニ改メ
ル

附 則

コノ省令ハ公布ノ日カラコレヲ施行スル

○難 款

○郵便物發送先

特別保管艦 海第八十七號殘務整理班

京都府舞鶴市字長濱(舞鶴地方復員局管船部内)

元特別保管艦 生野、神津、倉橋、屋代、保高、四阪

横須賀市浦賀町
(管船部補充課第一宿舎内第四群殘務整理班)

○殘務整理

八月六日開始 海第三〇五號及二〇七號 舞鶴管船部内

○正誤

七月三十日附復員廳第二復員局公報第一二八號復二第五一五
號中「別表ヲ別表ノヨウニ改正スル」ハ「別表中「掃海慰勞

金」ノ上ニ「別表第一(勤務期間十四月未滿ノモノ)」ヲ加ヘ

同表ノ次ニ別表第二トシテ別表ヲ加フ」ノ誤リ又同號中別表

ニ「別表第二(勤務期間十四月以上ノモノ)」ヲ脱ス。

第二復員局公報第一三三號一六二頁臨時囑託者採用ニ關スル

件申進中左記「五」ハ「六」フ、「七」ハ「五」ノ執レモ誤

復員廳第二復員局公報

第一三四號

昭和二十二年八月二十七日(水)
第二復員局文書課

命令 達

復二第五七〇號

當分ノ間第二復員部内職員公務ニ依リ内地ヲ旅行スルトキ支給スベキ車馬賃、日當、宿泊料及ビ食卓料ハ海軍内國旅費規則第三表及ビ第四表ノ規定ニカ、ワラズ別表ニヨル。
本則ハ昭和二十二年八月一日以降ノ旅行ニツキコレヲ適用スル。

昭和二十一年八月復二第一七九號及ビ昭和二十二年五月復二三七五號ハ昭和二十二年七月三十一日限りコレヲ廢止スル。
昭和二十二年八月十九日

復員廳總裁

(別表)

區分	金額
車馬賃一料ニ付	二〇〇〇
日當二日ニ付	四〇〇〇
宿泊料 甲地方	二〇〇〇
乙地方	一五〇〇
一夜ニ付	一〇〇〇

復員廳第二復員局公報 第一三四號 昭和二十二年八月二十七日

一六五

食卓料一夜ニ付

四〇〇〇

- 備考
- 一 甲地方トハ東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、神戸市、横濱市ヲイフ。
 - 二 乙地方トハ前記以外ノ地方ヲイフ。
 - 三 一料ノ計算ハ一哩ハ一・六料、一哩ハ一・八五料、一里ハ四料ト看做シコレヲ計算スル。

復二第五八二號

復員廳第二復員局及ビ地方復員局ノ定員ヲ各々別表ノヨウニ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。
昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁

(別表ニ添)

復二第五八三號

掃海監部規程中次ノヨウニ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。
昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁

掃海監部定員表中復員事務官二級「二三」ヲ「九」ニ、復員事

務官三級「一七」ヲ「二二」ニ、雇員、傭人「四一」ヲ「二九」ニ、計「七十四人」ヲ「五十三人」ニ改メル。

(參照 昭和二十一年十二月二十六日及本年一月十五日第二復員局公報)

復二第五八四號

昭和二十二年復二第五三三號試航基地設置等ニ關スル件中次ノ事ヲ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。

昭和二十二年八月二十六日

復員廳 總裁

第四條中「定員及ビ」及ビ第二「ヲ」削ル。

第六條中「別表第三」ヲ「別表第二」ニ改メル。

第八條 削除

別表中別表第一ヲ削リ「別表第二」ヲ「別表第一」ニ、「別表第三」ヲ「別表第二」ニ改メル。

(參照 八月一日、八月二十日第二復員局公報)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

試航船「桑」丸 下關市吉見町 下關掃海部氣付
同 「わかぐさ丸」 山口縣宇部市 宇部郵便局氣付

○ 移轉

德島縣教育民生部世話課第二復員係

德島市新藏町一丁目

○ 殘務整理

八月五日開始

特別保管艦海第六十七號殘務整理班
舞鶴市長濱 舞鶴管船部内

(復二第五八二號第一表)

(昭和二十二年八月二十七日復員廳第二復員局公報)

復員廳第二復員局定員表

考 備	合 計	資 料 整 理 部	連 絡 部	調 査 部	補 給 部	經 理 部		人 事 部		總 務 部					文 書 課	復 員 局 定 員 表					
						會 計 課	主 計 課	扶 助 課	人 事 課	計	電 信 課	造 修 課	掃 海 課	管 船 課			總 務 課				
一 總務部、人事部及び經理部ノ各課ノ人員ハ當該部ノ各課ヲ通ジテコレヲ置クコトガデキル。	四	一四	一四	一六	七	一四	七	二八	一九	三八	五	七	一三	八	一	一級	二級	三級	四級	嘱 託	雇 員、備 人
二 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニハ復員技官ヲコレニ充テルコトガデキル。																					
三 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代エ嘱託ヲ置クコトガデキル。																					
四 總裁官房ニ復員事務官二級一人及ビ三級一人並ビニ雇員備人四人ヲ配員スル。																					
五 掃海監部ノ定員ハ別ニ定メルトコロニヨル。																					
	一三七	一四	一四	一六	七	一四	七	二八	一九	三八	五	七	一三	八	一	一級	二級	三級	四級	嘱 託	雇 員、備 人
	一一八	四	二	三	三	二七	一八	三七	二五	三八	一七	四	五	四							
	五三	五	八	五	二	八	一	八	三	六			二	三							
	四八〇	一四	四	一一	一一	一〇八	一〇	一八六	一〇二	四三	一〇	八	九	九							

(復二第五八二號第二表)

(昭和二十二年八月二十七日復員廳第二復員局公報)

復員廳地方復員局定員表

考 備	合 計	局員復方地阪大				局員復方地鶴舞				局員復方地保世佐				局員復方地吳						局員復方地賀須横						局 部、所、基地										
		紀伊山良補給基地	補給部	經理部	總務部	舞鶴上陸地連絡所	舞鶴管船部	補給部	經理部	人 事 部	總 務 部	佐世保上陸地連絡所	佐世保管船部	補給部	經理部	人 事 部	總 務 部	宇品上陸地連絡所	德山試航基地	吳試航基地	下關掃海部	吳管船部	補給部	經理部	人 事 部	總 務 部	函館上陸地連絡所	大湊管船部	横須賀管船部	補給部	經理部	人 事 部	總 務 部	復 員 局	復 員 局 定 員 表	
一 各地方復員局長ハ各部所ノ事務ノ繁閑ニ應ジテ各部所ノ人員ヲ彼此増減スルコトガデキル、但シコノ場合 中央配員ノ者ニツイテハ速カニ第二復員局人事部長ニ通報スルモノトスル。 二 復員事務官ニ級又ハ三級ノ定員ニハ復員技官ヲコレニ充テルコトガデキル。 三 復員事務官ニ級又ハ三級ノ定員ニ代エ嘱託ヲ置クコトガデキル。 四 本表ノ外行動不能艦艇ノ保管員又ハ監視員ニ充テルタメ各艦艇毎ニ復員事務官、雇員傭人一人又ハ二人ヲ 當該管船部又ハ總務部ニ増加スル。	三	二四	四	四	一三	五二	五	一五	八	五	七	一一	一一	一一	一一	八〇	六	四	四	一七	七	八	五	一四	一五	一〇四	七	一一	三三	一一	一〇	一一	一一	一級	二級	
	三八五	八六一	三七	一三	四	三	一七	一一六	八	四〇	一〇	一一	一六	一一	一四	一一	一九九	六	七	七	五一	二八	一〇	七	四九	三四	二四〇	七	二八	八七	一一	二五	五六	二六	三級	四級
	五二	六	六	六	五	五	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一級	二級
	二、六九六	一〇八	一三	三一	一五	四九	三七四	一〇	七〇	二九	五二	五九	五二	五九	五二	五九	七〇	六	六	六	一四七	六六	八二	九一	二六	四一	八二三	一四	三四	一六一	一一〇	一八九	二六六	四九	三級	四級

復員廳第二復員局公報

第一三五號

第二復員局文書課

昭和二十二年八月二十八日(木)

○令 達

復二第五五號

第二復員部内退職手当支給規則ヲ次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月二十七日

復員廳 總裁

第二復員部内退職手当支給規則

第一條 第二復員部内ニ勤務スル官吏、嘱託者、雇員及ビ傭人(以下職員トイフ)ガ退職(退官、解職、解雇、解雇及ビ死亡シイフ)スルトキハ本則ニヨリ退職手当ヲ支給スル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハコレヲ支給シナイ。

一、俸給、給料(報酬ヲ含ム以下同ジ)ノ支給ヲ受ケナイ者。
二、臨時ノ嘱託者、雇員又ハ傭人(外地ヨリ歸還シテ殘務整理員トシテ臨時嘱託トナツタ者ヲ含ム)。
三、禁錮以上ノ刑ノ確定シタ者。
四、懲戒又ハコレニ準ズベキ事由ニヨリ退職ヲ命ゼラレタ者。

退職手当ハ職員ガ退職シタ場合デアツテモ引續キ政府職員トシテ在職(退職ノ日又ハソノ翌日再就職シタ場合モ含ム)スルトキハコレヲ支給シナイ但シ官更方嘱託者、雇員又ハ傭人

トナツタ場合ハソノ際コレヲ支給スル。

第二條 勤続十年未満デ退職シタ者ニ對スル退職手当ノ額ハ左ノ各號ニヨツテ算出シタ金額ノ合計額以內トスル。

一、勤続五年以下ノ期間ニツイテハ滿一年毎ニ俸給又ハ給料月額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額
二、勤続五年ヲ超エル期間ニツイテハ滿一年毎ニ俸給又ハ給料月額ノ百分ノ二十七・五ニ相當スル金額

勤続十年以上デ退職シタ者ニ對スル退職手当ノ額ハ別ニ定メル。

第三條 傷疾疾病ニヨリソノ職ニ堪ヘズ退職シタ職員及ビ在職中死亡シタ職員ニ對スル退職手当ノ額ハソノ者ノ勤続期間ニ應ジ前條ノ規定ヲ適用シテ計算シタ金額ニソノ二十割ニ相當スル金額以內ヲ加算シタモノトスルコトガデキル但シ退職手当ハ少クトモ俸給又ハ給料月額ノ一・五百分ニ相當スル金額トシソノ金額ハ本人五百圓、扶養家族一人ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

第四條 職務執行上ノ傷疾疾病ニヨリ退職又ハ死亡シタ職員及ビ廢官、廢廳又ハ整理ニヨリ退職シタ職員ニ對スル退職手当ノ額ハソノ者ノ勤続期間ニ應ジ第二條ノ規定ヲ適用シテ計算シタ金額ニソノ三十割ニ相當スル金額以內ヲ加算シタモノト

復員廳第二復員局公報 第一三五號 昭和二十二年八月二十八日

一六七

スルコトガデキル但シノ金額が左ノ各號ノ一ニ定メル金額ヨリ少額デアルトキハソノ多額ニツキコレヲ支給スル。

一 官吏ニ對シテハ依給ノ一・五月份ニ相當スル金額但シノノ金額ハ本人五百圓、扶養家族一人ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

二 囑託者、雇員及ビ傭人ニ對シテハ給料月額ト扶養家族一人ニツキ月額八十圓トノ合計額ノ一・五月份ニ相當スル金額但シ本人五百圓、扶養家族ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

三 囑託者、雇員及ビ傭人デ官衙ノ閉鎖要員ノ大幅整理（當該官衙ニアル囑託者、雇員及ビ傭人ノ全數ノ五分ノ一以上ヲ一時ニ整理スル場合シイフ）又ハ輸送任務又ハ掃海作業終了ニヨリ退職スル者デ在職中職務ニ精勵シ成績顯著ノモノニ限リ特ニ給料月額ト扶養家族一人ニツキ月額八十圓トノ合計額ノ二分ニ相當スル金額。

第五條 勤続期間ハ左ノ方法ニヨツテ計算スル。

一 勤続期間ハ月ヲ以テ計算シ一年未滿ノ端數ハコレヲ切捨テ但シ第三條及ビ第四條ノ場合ニ於テ勤続期間ガ一年未滿デアルトキハコレヲ滿一年ニ切上ゲル。

二 休職ソノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要シナイ在職期間ハコレヲ半減スル。

三 勤続期間ノ始期ハ昭和二十年十二月一日トスル。

四 囑託者、雇員又ビ傭人デ退職手續ヲ受タルモノノ在職期

間ニハ官吏デアツタ在職期間ハコレヲ通算シナイ。

第六條 退職手續ノ金額ニ四位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハコレヲ四位ニ切上ゲル。

第七條 廳長ハ勤務怠惰、成績不良其ノ他必要アリト認メル場合ハソノ情狀ニヨリ手當ノ額ヲ減ジ又ハコレヲ支給シナイモノトスル。

第八條 退職手續ヲ支給サレタ者死亡シタトキハソノ遺族ニコレヲ支給スル。

前項ノ遺族ノナイ場合ニ於テ葬祭ヲ行ツタ者ニ對シテハ遺族ニ支給サル退職手續ノ二分ノ一ニ相當スル額ヲ支給スルコトガデキル。

第九條 支出官又ハ資金前渡官吏退職手續ヲ支給シタトキハ翌月十五日迄ニ等級別（一、二、三級官吏、囑託者、雇員及ビ傭人別）員數及ビ金額ヲ記載シタ調書ヲ作成シ所屬ノ經理部長ニ提出スルモノトスル。

經理部長前項ノ調書ニヨリ總括調書ヲ作成シソノ月ノ末日迄ニコレヲ第二復員局經理部長ニ送付スルモノトスル。

附則

本則ハ昭和二十二年九月一日以後退職シタ者ニコレヲ適用スル。

昭和二十一年復員第五〇四號ハ昭和二十二年八月三十一日限りコレヲ廢止スル。

復員廳第二復員局公報

第一三七號

昭和二十二年九月一日(月)
第二復員局文書課

○令 達

復二第六〇〇號

復員廳分課規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月三十一日

復員廳總裁

別紙第二ノ第二十八條表中大阪地方復員局ノ項掃海部ノ欄「阪神」ヲ削ル。

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第六〇一號

昭和二十二年復二第三五六號復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月三十一日

復員廳總裁

大阪地方復員局ノ部中阪神掃海部ノ項ヲ削リ計ノ項「五〇」ヲ「二七」ニ、「一〇九」ヲ「三二」ニ、「二五二」ヲ「三四」ニ改メ合計ノ項中「五五〇」ヲ「五二七」ニ、「一、三〇八」ヲ「一、二三一」ニ、「三、九六二」ヲ「三、八四四」ニ改メル。

(參照 五月十六日第二復員局公報)

○通 牒

二復總二四四號

昭和二十二年八月三十日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

無線羅針局方位信號所業務再開ノ件通知

首題ニ關シ別紙第一、第二ノ通り東京逓信局長ヨリ通知ガフツタカラ了知サレタイ。

(別紙第二)

波業第七九七五號

昭和二十二年五月五日

東京逓信局長

第二復員局長殿

無線羅針局業務再開ニツイテ

野島崎無線方位信號所ハ、戰災ニヨル機器故障ノタメ、羅針業務ヲ休止シテイタガ、復舊シタノデ、去ル五月一日カラ業務ヲ再開シタカラ利用方ヨロシク取り計ラソレタイ。

(別紙第二)

復員廳第二復員局公報 第一三七號 昭和二十二年九月一日

一七一

波業第八六二八號

昭和二十二年五月十三日

東京遞信局長

船舶無線電信施設者殿

無線方位信號所施設ニツイテ

右ニツイテ、サキニ通達シテオイトコロ、今般左記ノ通り、一部業務中止又ハ再開サレタカラ、利用方ヨロシク取り計ラワレタイ。

記

無線方位 信號所名	業務種別	業務中止又 ハ再開月日	備考
宗谷岬方位 信號所	羅針及ビ 標識	三月十五日	發動機故障ノタメ業務 中止(復舊月日未定)
恵山岬方位 信號所	同	三月十六日	業務再開

復員廳第二復員局公報

第一三六號

昭和二十二年八月二十九日(金)
第二復員局文書課

○令 達

復二第五九六號

元隰逐艦 革

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月二十日

復員廳 總裁

復二第五九七號

元第一 一 號 驅潛特務艇

元第六十八號

元第一百五十五號

元第一百六十一號

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第七十八號

元第七十五號

元第八十一號

元第八十六號

元第八十七號

元第九十九六號

元第九十八號

元第二百三號

元第二百十二號

元第二百十七號

元第二百二十七號

元第二百三十二號

元第二百三十九號

元第二百四十五號

元第八十號

元第五十四號

元第六十九號

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第六十六號

元第二百十九號

元第二百三十六號

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第四十四號

復員廳第二復員局公報 第一三六號 昭和二十二年八月二十九日

一六九

元第二十七號
元第八十三號
元第八十五號
右ヲ特別輸送艦トシテ大阪地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。
昭和二十二年八月二十八日
復員廳總裁

○通牒

第三番電 (昭和二十二年八月二日發電済)

發 經理部長
宛 部内一般

○雜款

八月分ノ恒例諸給與(食料ヲ除キ且暫定加給ノ臨時増給ハ六割トスル)ノ支給日ハ八月五日ニ繰上ゲラル。
尚昭和二十二年六月十二日第一番電(六月十六日公報参照)中「四月分乃至七月」ヲ「四月分乃至八月」ニ改メル。

○郵便物發送先

試航船 東亞丸 下關郵便局氣付
同 榮昌丸 山口縣徳山市 徳山試航基地氣付

○殘務整理

特別保管艦 花月、春月、夏月、雪風、楠
横須賀地方復員局
管船部浦賀分室内第一群殘務整理班事務所